

場所 兵庫県神戸市

面積 13.29ha

活動目的 兵庫運河を人が働きかけ手を入れることで生物多様性に富み、恵み豊かになった海辺である「里海」に再生させ、環境学習を通じて次世代にわたって取り組みを継続させる。また、里海活動の先駆者となり活動を全国に波及させ、日本全体を豊かな海に再生させる。



サイト概要 本サイトは、兵庫県神戸市兵庫区に位置し、明治32年（1899年）に整備された運河である。

兵庫運河の全長は6.5kmであり、南東方向に延びる和田岬を斜めに横断する形で整備され、大阪湾と繋がっており、神戸港の港湾区域でもある。従来から清掃活動が行われているほか、人工の干潟や砂浜が整備され、地域の人々が中心となって、アマモの移植やアサリの保全、いきものの生育調査など様々な取り組みが行われたことで、水質はおおきく改善し、多種多様な生物が生息している。また、里海の持続を目指して環境学習の場としても使用されている。

現在、海生動物278種、その他海岸植物・海藻草類等57種が確認されている。申請区域は兵庫運河のうち、保全活動等を行っている1,700mの範囲である。

土地利用の 変遷	兵庫運河は、明治32年（1899年）に船で安全に荷物を運ぶために整備され、第2次世界大戦以降は、貯木場として使われていた。しかし、近年その役割は変化しており、いきものを育み、豊かな自然に貢献する場に生まれ変わっている。
サイト周辺の 環境	木材会社などの企業のほか、商業施設や学校、住宅地などの都市空間の中に運河が存在し、大阪湾を繋いでいる。
アピール ポイント	・ 小学校において兵庫運河の豊かな海を学ぶ授業が行われており重要な環境学習の場となっている。 ・ 定期的に生物調査が行われており、人工干潟を中心に希少な生物を含む豊かな生態系が保たれている。 ・ 兵庫運河の自然を再生するプロジェクトとして、各団体が協力して、アマモの移植やアサリの保全、土壌改善などの活動が行われている。

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトでは、兵庫漁業協同組合を中心に里海の大切さと漁業振興を図るため、小学生に対して「アマモの移植」「アサリの調査」「いきもの調査」を定期的を実施している。また、2005年から2006年にかけてアコヤガイの養殖に成功したことをきっかけに、環境の学びにしようとして2007年から兵庫運河・真珠貝プロジェクトを開始し、市内の真珠業者の協力のもと、小学生が親子で参加し、貝の世話を通じて命の大切さを学んでいる。

【主な植生】

干潟：ツルナなど

海面：アマモ、アオサ、テングサなどの海草・海藻類

【確認された主な動植物など】

アマモやワカメ、ツルモなど多くの海草・藻類により藻場が構成されており、コウイカやシマイサキなど多様な分類群の生物が生息している。また、干潟には環形動物や軟体動物、甲殻類も多く生息しており、ウミネコなどの鳥類の生活の場になっている。このほか、環境省レッドリストや兵庫県版レッドリスト、神戸版レッドデータに掲載されている希少種も複数確認されている。

・分類群ごとの確認種数

海綿動物5種、刺胞動物10種、外肛動物10種、箒虫動物1種、紐虫動物8種、扁形動物4種、星口動物2種、軟体動物118種、環形動物18種、節足動物54種、棘皮動物15種、脊索動物9種、顎口動物（魚類）20種、脊椎動物（鳥類）4種、海藻類36種、その他21種計335種



写真の説明：小学生の調査（あつまれ生き物の浜）



写真の説明：真珠貝プロジェクト浜揚げ式

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

兵庫運河の河口にあたる新川運河には、明治時代に作られた石積みの護岸が存在し、岩礁性の生物が生息しているほか、国土交通省が整備した干潟「あつまれ生き物の浜」と神戸市が整備した砂浜「浜っ子きらきらビーチ」などの干潟も存在し、いずれの場所も干満および潮流の影響を大きく受け、多種多様な生態系を形成しており、希少な動植物が生息している。

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020、兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）、兵庫県版レッドリスト2020（植物・植物群落）、神戸版レッドデータ2020の掲載種として、軟体動物8種、環形動物1種、節足動物3種、棘皮動物1種、海藻類2種、被子植物1種が確認されている。



写真の説明：ヨモギホンヤドカリ



写真の説明：ウミニナとホソウミニナ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<活動目的> 兵庫運河を人が働きかけ手を入れることで生物多様性に富み、恵み豊かになった海辺である「里海」に再生する。 <活動内容> 申請区域を①あつまれ生き物の浜、②浜っ子きらきらビーチ、③アマモ繁茂地、④兵庫運河真珠貝プロジェクト実施区域、⑤新川河口周辺に分けて、価値(4),(6)の保全に貢献するよう以下の保全・利用活動を行う。 ①：甲殻類や貝類をはじめとした希少な生物が生息。干潟の土壌改善のために牡蠣殻を散布している他、干潟の生物調査を通じて小学生へ干潟の生物多様性を伝える環境教育を実施（価値(4),(6)）。 ②：土壌改善のために牡蠣殻を散布しているほか、アサリの保全活動を実施。また、小学生がアサリ調査を通じて水質浄化の役割や成長度合いなどを学ぶ活動や、アマモの苗を準備して移植するなどの環境学習も実施（価値(4),(6)）。 ③：アマモマット設置等の移植や繁茂状況の調査を実施（価値(4)）。 ④：兵庫運河真珠貝プロジェクト実施区域：小学生・中学生・保護者会員を募集し、「真珠のまち神戸」における水質浄化のシンボルとして、兵庫運河にて「あこや貝」を養殖し真珠を取り出すプロジェクトを実施（価値(4)）。 ⑤：兵庫運河の自然を再生するプロジェクトが水棲生物全般の調査を実施（価値(6)）。 <実施体制、計画の点検・見直し> 「兵庫運河の自然を再生するプロジェクト」として、漁業者、兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、兵庫運河真珠貝プロジェクト、兵庫運河生物調査研究会が中心となって活動を実施し、必要に応じて今後の活動計画の修正等も行う。	【モニタリング対象】 A. 水棲生物全般 B. アマモ分布 【モニタリング場所】 A.①あつまれ生き物の浜周辺、②きらきらビーチ周辺、③新川河口周辺 B.アマモ繁茂地 【モニタリング手法】 A.直接目撃と採取 B.潜水による目視・コドラード調査 【モニタリングの実施時期及び頻度】 A.①年2回程度、②年4回程度、③月1回程度 B.月1回程度（年2回は測線調査） 【モニタリング実施体制】 A.兵庫運河の自然を再生するプロジェクトのメンバーが主体となって実施 有識者：西宮市貝類館学芸員 高田 良二 B.兵庫漁業協同組合が主体となって実施 有識者：徳島大学 環境防災研究センター 教授 上月 康則